

長野下諏訪町

スタンディング9条こそ抑止力

長野県下諏訪町の諏訪大社に向かう交差点

で27日、9人が参加し、スタンディング宣伝を行いました。時折、コールも行いアピールしました。諏訪湖・八ヶ岳地域ぐるみの会の呼びかけで始まった宣伝は、3日から国会最終日まで毎日続け25回目です。

参加者は「日に日に反応がいい」といいます。平日には女子高校生が「私たちも同じ気持ち」と声をかけ、助手席から両手を振って通行する車や観光バスの乗客も手をふります。27日は通りがかつ

た男性が「日本の危機だ」。観光客の男性も「政権を変えるしかない」と声をかけていました。

参加した78歳の男性は「いい年して」って

いわれても、許せない。憤りでここに来てい。憲法9条こそが抑止力だ」と。小野真一郎さん(65)は「何も意見を聞いていない。公聴会は形だけ、聞い

たふりだけだ」と怒ります。69歳の女性は「戦争へ導く法律だとみんなにわかってほしい」。武井秀夫さん(83)は「一点共闘で政権を倒すことが大事

だ。たたかう相手はファシストなんだから」と語りました。下諏訪町では廃止まで毎週木曜日にスタンディング宣伝を続ける予定です。

名鉄岐阜駅前

看護師飛び入り会社員もマイク

新日本婦人の会岐阜支部による戦争法廃止



「国民が力を合わせて戦争法廃止の国民連合政府を表現しよう」との呼びかけに応じて署名する通行人。25日、名鉄岐阜駅前

レッドアクションが25日夕、名鉄岐阜駅前で行われました。宇留野理恵事務局長らは「これからが本当のたたかい。戦争法絶対廃止の声を広げて、国民連合政府の実現めざそう」と訴えました。

最後に「安倍内閣は直ちに退陣」「戦争法制直ちに廃止」と連呼コールしました。戦争法廃止の署名をした年金者の男性(86)は「何でも多数決で決めるのなら国会はいらない。国民の声を聞かない安倍はいますぐやめよ」と語りました。

戦争法廃止へ声あげる



垂れ幕がかかった建物前の交差点でアピールする参加者。27日、長野県下諏訪町